

全国大学反戦ストへ!

2015年11月30日
No.344

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信



★斎藤委員長のアピール!

星野文昭さんが1975年に不当逮捕され、獄中に入ってから10年以上経って私は生まれました。今、安倍政権が戦争法成立を強行し、そこで国会を守っていた警視庁機動隊が、沖縄に行って辺野古への米軍新基地建設を強行するために、沖縄の闘う労働者民衆に暴力を振るっています。

これがこの国の正体です。星野さんは私が生まれるはるか前、あの70年安保・沖縄決戦の中で71年11・14渋谷暴動闘争に立ち上がり、戦争絶対反対の怒りを沖縄の怒りと一体化させて渋谷で闘いました。この時のデモのリーダーであったがゆえに、これほどまでに長い間獄に閉じ込められています。

全学連はよく「すごく明るい」と言われますが、今、中東を一つの焦点に再びの世界戦争が始まるのではないかという状況の中で、「絶対負けない!」と明るく闘い抜けるし、「その根拠はどこにあるのか?」と考えた時、星野さんが全学連の大先輩として、どれほど攻撃されても原則と団結を守って闘い抜いているということがあります。その星野さんの闘いがある、こんなに多くの人々が何



十年も奪還闘争を支援し、そのもとで同じ精神で労働運動・学生運動・市民運動が戦闘的かつ革命的に闘っています。

今、あらゆる党派が学生の獲得に失敗していますが、私たちは本当に戦闘的に闘い、命をかけて人生をかけて闘い抜けますし、そういう運動に意味があると思っています。10月27日の京都大反戦バリケードストライキに対し、京大当局は「刑事告訴する」と言っています。星野さんの渋谷暴動闘争での反戦決起に対し、40年以上も獄に閉じこめ、無期懲役にし、「死ぬまで刑務所にいろ」という攻撃と完全に問題

は一体です。私たちに闘う時に求められるものは、星野さんの闘う精神です。それを自分だけの精神にするのではなく、多くの労働者・学生と団結して世界を変える闘いをやる。これこそ、星野さんがずっと訴えてきたことであり、これを私たちは全国大学からの反戦ストライキとして必ず実現していきます。韓国、トルコ、世界の労働者と団結し、戦争を止める具体的行動を日本中から巻き起こします。ともに闘いましょう! 来年こそ星野さんを取り戻し、ゼネラルストライキを巻き起こしましょう!

全国労組交流センター代表・辻川さん発言！

11・14韓国民衆総決起大会でのハン・サンギョン民主労総委員長の発言を思い出してください。「労働者階級が団結すれば出来ないことはない！」と彼は徹底的に訴えています。それを見事に闘い抜いたのが11月14日の闘いです。そこに動労千葉を先頭に100人の訪韓団が合流しました。これに対し、韓国の治安当局が「日本から過激派100人が来る。これと一緒にやるのか」と恫喝した。それを真っ向からはねのけ、訪韓団は民主労総と団結して闘い抜いた。

民主労総の同志は、訪韓団に必ず、現場の比較的小さな争議を案内してくれます。これほどの15万人の大闘争やゼネストをやるまでになったのは、無数の小さな闘いを目には見えない人たちの努力で築き上げてきたからです。「必ずあなたたちならできる！」、民主労総の仲間がそう言っていてるんだと思います。最初は数は少なくとも、労働者階級が小さな闘いを不屈に積み上げていった時に巨大な闘いが実現する。そのことを私たちは11月の闘いから学びました。

星野闘争と国鉄闘争は一体です。来年、星野暁子さんと文昭さんは結婚30周年です。そして30年前の今日、動労千葉は全組合員がクビをかけて「分割・民営化阻止」の第1波ストライキを闘っていました。来年は第2波ストラ



イキから30周年です。動労水戸と動労総連合も結成30周年です。動労総連合を全国につくるといのは、民主労総が私たちに教えてくれているあのゼネストを日本でも必ず実現する、という決意です。決意だけじゃない。沖縄をはじめ、私たちは実際に一つひとつの重要な闘いを勝ち抜いています。

そして、福島いわきでの闘いの報告です。「3・11」から間もなく5年。満を持していわき市で星野絵画展をやります。避難所で自分の連れ合いを亡くした人、子どもが難病で自分が何度も移設を考えた人、そういう人たちが星野絵画展に来て、「自分は星野さんの絵と闘いから生きる力をもらった」「絶対に負けない」と言って、また友だちを連れてくる。あるいはピラを自分からまきに行く、星野さんの闘いを、自分たちの闘いとしてやり始めている。これはとても重要なことです。いま福島をめぐって、「福島安全宣言」だとか安倍政権が無茶苦茶なことをやっている。しかし福島県民は絶対に負けない。絵画展で、「星野さんの闘いは松川事件と同じですね」と言った人もいます。また、沖縄の全駐労組合員が福島原発を訪ねてきて、「沖縄闘争」という言葉を聞いて絵画展に参加しに来ました。「自分は基地反対の基地労働者だけれども、基地に反対する全駐労にいます。自分も基地は沖縄に絶対いらないと思っている」と言って、ものすごく決定的な機会が生まれたんです。星野闘争は、国鉄闘争での動労総連合の全国的建設、階級的労働運動の全国的建設の闘いがあって、初めて弁護団の闘いもみなさんの闘いも生きると確信しています。断固として頑張りましょう！



集会後、東京高裁～日比谷公園まで都心をデモ！



【当面する行動方針】

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判控訴審＝判決

12月3日(木) 13時半～ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて

